

飯田市南信濃温泉交流施設（かぐらの湯）の休館について

飯田市南信濃温泉交流施設（かぐらの湯）は、直営により令和2年7月から沸かし湯による営業を行ってきた。

しかしながら長引くコロナ禍の影響により利用者数が伸び悩んでいることや、世界的な原油価格の高騰により当初予定していた以上の維持費がかかっていることなどを原因として、赤字を計上している状態にある。

一方、当該入浴施設を含む道の駅遠山郷の今後のあり方については、地元において立ちあがった「あり方検討会議」での議論をはじめ、飯田市としても本定例会において補正予算として審議いただいている「道の駅遠山郷運営改善計画策定業務」の実施などにより、具体的検討を進めていく状況にある。

こうした状況を鑑み、飯田市南信濃温泉交流施設（かぐらの湯）を当面の間休館とする。なお、道の駅として必要な施設（駐車場、トイレ、情報提供施設）は、継続して運営する。

1 かぐらの湯の休館について

(1) 休館期間

令和3年11月29日から当面の間

※再開時期については、ポンプ落下事故に伴う長野県建設工事紛争審査会の審理状況を注視しつつ検討する。

(2) かぐらの湯における主な維持費の積算

(千円)

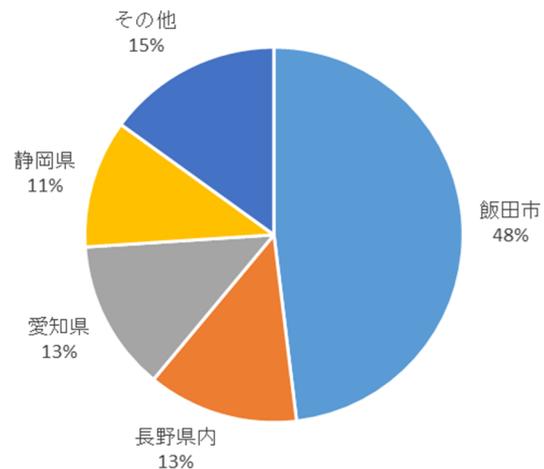
	R2 実績額(A)	R3. 11 末で休館する場合の執行見込額(B)	R3 年度末まで運営を続けた際の執行見込額(C)	R3. 11 末で休館することによる差額(C)-(B)
重油（ボイラ）	2,917	3,160	4,747	1,587
灯油（ボイラ及び空調）	2,683	2,112	3,468	1,356
ペレット（ボイラ）	3,486	1,251	2,510	1,259
電気料	4,778	3,142	4,592	1,450
上下水道料	697	734	1,006	272
人件費	10,143	9,670	11,895	2,225
合計	24,704	20,069	28,218	8,149
収入（入浴料等）	6,390	7,070	8,820	1,750

※現在、会計年度任用職員として12名が勤務しているが、道の駅遠山郷の管理運営にかかる必要最小限の人員を除き、雇用契約は令和3年11月末をもって解除する。

(3) かぐらの湯の利用者数(単位:人)

	令和2年度	令和3年度
4月	—	1,393
5月	—	1,995
6月	—	1,345
7月	986	1,939
8月	2,376	1,358
9月	2,107	
10月	2,023	
11月	2,054	
12月	1,103	
1月	469	
2月	1,005	
3月	1,576	
合計	13,699	8,030

利用者の地域別構成比率



※5月以降の平日の営業時間については、午前10時からの開館を午後1時に変更し、1日あたり3時間の時間短縮営業を行っている。

2 道の駅遠山郷について

(1) 道の駅としての機能の維持

休館はかぐらの湯のみとし、道の駅として必要な駐車場やトイレ施設は、直営による運営を継続する。情報提供機能は、引き続き、アンバマイ館(指定管理者遠山郷観光協会)が担い、地域有志によるテント市等の実施を支援する。

(2) 道の駅遠山郷の課題と今後の進め方

三遠南信自動車の開通を見据え、長野県の南の玄関口にふさわしい中核拠点となるよう、以下の点について、地元地域とともに検討を進める。

ア 道の駅遠山郷の機能とコンセプト

遠山郷観光振興ビジョン戦略計画などとの整合を図るとともに、他地域道の駅の情報収集や専門家から意見聴取、三遠南信自動車道全線開通後の人の流れのシミュレーションなどを行い、地元地域とともに道の駅遠山郷の必要な機能について研究しコンセプトを策定する。

イ 道の駅遠山郷の運営形態

現時点では指定管理による運営を想定している。地域振興の点から地元地域を中心とした組織が理想と考えており、その可能性について地域と協議を進めて行く。

ウ 道の駅遠山郷の再整備等

かぐらの湯をはじめとする道の駅の施設の多くが、建設から20年が経過しており、老朽化による改修が必要な時期となっている。

道の駅遠山郷として必要な機能やコンセプトを踏まえ、再整備について検討する。